

次いで母の病に因つて郷に歸り、寛政十二年家を嗣子煥に譲り、又隨分齋と稱せしめ、己は豹阿彌と改め、文化十年五月十八日七十二歳を以て歿した。養、學を好み詩賦を能くし、南北合派の畫を描き、諸技通ぜざる所なかつた。隨分齋十二律の遺稿がある。

ツタヨシタダ 津田義忠 ↓ツダマサカツ津田正勝。

ツタヨシタツ 津田義辰 通稱内記・求馬。正忠の二子。前田綱紀に仕へて五百石を賜はり、父の歿後其の祿を還し、配分知千石を受け、寛文以後馬廻組又は大小將組に列し、先弓頭・大小將頭・馬廻頭に累遷した。元祿中飛騨高山に禪役し、十二年三月六日歿。

ツタヨシヤス 津田良康 通稱孟太郎・新藏・平兵衛。享保十七年父藤兵衛の遺知二百石を受け、安永二年百五十石を加へ、前田重致御抱守から定番頭に至り、寛政六年正月致仕して道閑と號し、料三百石を受けた。

ツチイン 都智院 羽咋郡に在つた。和名抄所載都智郷の地で、承久三年注進の能登國田數目録には『都智院、九町七段五、建治元年檢注田定』と見える。但し建治は承久以後であるから、原本の誤寫であらう。

ツチカハ 土川 鹿島郡豊田保に屬する部落。明治二十年隣邑萩屋を併合した。

ツチカハヨケ 土川除 改作所舊記に、『享保六年七月廿二日石川郡田井村領土川除之上地藏の前に喧嘩有之云々』とある。延寶金澤圖に犀川の川上なる堤防を石川除又は土川除と記するから、石を以て積んだのを石川除、土を以て積んだのを土川除というたのであらう。

ツチゴウ 都知郷 羽咋郡の古郷名。和名抄に都知と訓する。後世土田庄といふものに當る。

ツチコバラ 土子原 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

ツチシヨウツ 土清水 石川郡金浦郷に屬する部落。元祿十二年の書上に、土清水村は寛文六年より新開し新村を立てたとある。しかし三帝記には、正保三年牟田中覺兵衛小松に言上し、寺津村の石島より川を掘上げ、土清水の山腰を通し、牛坂の上野と土清水野とを田地に開墾せしめたとしてゐる。

ツチシヨウツエンシヨウケラ 土清水硝窟倉 ↓エンシヨウウセイゾウシヨ 硝窟製造所。
ツチシヨウツソバ 土清水蕎麥 石川郡土清水は蕎麥を名産とした。寶曆十三年の調書に、『蕎麥、土清水村』とある。

ツチダウチ 土田氏 能登の土豪。源平盛衰記廿九に、『木曾は越後國府を立て越中へ入、國々軍兵馳集て木曾に加る。能登國には土田・關・日置云々等參けり。』貞和二年閏九月得田章名の軍忠狀に、『越中國凶徒爲對治井上宮内權少輔俊清以下、康永四年二月七日奉屬當國守護吉見大藏大輔殿御手令發向越中國、於所々致數ヶ度軍忠之條、兩侍所長井藤内左衛門尉土田十郎右衛門尉見知畢。』と見える。

又土田庄館村領に在る館跡を、越登賀三州志故墟考に、土田民部が居たがその傳は知られぬともある。

ツチダサクエモン 土田作右衛門 初め前田安勝に仕へ、後前田利常に轉じて百五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツチダシヨウ 土田庄 羽咋郡に在つた。

和名抄所載都知郷の地である。壽永三年賀茂神領記に土田庄桃浦とあつて、賀茂別當社領があり、承久三年注進の能登國田數目録には、『土田莊、拾六町七段六、文治四年立券狀。土田莊内得田村、七町七段七、文治四年立券。』と見える。後世徳田村は土田庄に、百浦村は加茂庄に屬する。

ツチダシヨウ 土田庄 羽咋郡に屬し、藩政時代では、館開・徳田・印内・代田・矢田・谷屋・福井・館・二所宮・上棚・栗山・佛木・中山・市・谷の十四ヶ村を含んで居た。その内市・谷は新開の地である。

ツチダシヨウカミムラ 土田庄上村 正和四年十二月廿日沙彌了用讓狀に『濃登國土田庄上村半分云々。』貞治二年七月廿九日治部大輔判書に、『能登國土田上村内地頭職事。』とあり、尙その他にも見える。羽咋郡ではあるが、今の何れの地に當るかは明らかでない。

ツチダセイザエモン 土田清左衛門 大聖寺藩士。祿三百石。藩祖前田利治が九谷金坑の探掘を試みた時にはその總奉行であつた。萬治二年五十四歳を以て歿。

ツチダナンコウ 土田南阜 諱は直諒、字は伯温。南阜又は隨處と號した。金澤の人。初め書を渡邊茜園に學び、後清の胡兆新に私淑して一家の機軸を出した。南阜又和標に巧みで、筆蹟山本基庸に酷似してゐた。傍文人畫をも能くする。明治の後小學及び師範教育に従ひ、二十年三月廿二日歿。享年六十六。

ツチタニ 土谷 江沼郡上原の小字で、一に下村ともいふ。江沼志稿に、この村に神護間兵衛の居蹟があり、間兵衛は秀吉が山中温泉入浴の際居屋敷四百歩を拜領したと傳へる

とある。秀吉の山中入浴のことは明らかでない。土谷は今上原に合併せられた。

ツチダノブツナ 土田信綱 大聖寺藩士。津田伊右衛門の二子、幼名理吉。十一歳にして土田治兵衛に養はれ、權之助・權助・治兵衛と改めた。文化九年父致仕の後を襲ぎ、嘉永二年正月八日六十一歳を以て歿。その著に聖藩年譜草稿がある。

ツチダフスイ 土田不睡 能美郡小松の俳人。通稱權六。松之舎と稱し、明治十七年十月廿四日歿した。

ツチトリバ 土取場 金澤の町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、經王寺近所土取場と見える。今いふ土取場は萬治の頃から瓦小屋の在つた地で、寛文の初にその事が止んだから、四年に瓦小屋跡を畠に開發し、その左右は與力町の地續きであつたので、相對御として亦與力の屋敷地とし、之を土取場と稱した。土取場は瓦の土を取つた所であるからの名稱である。

ツチノコザカ 槌子坂 金澤に在つて、今の賢坂辻から味噌蔵町に入る小坂である。その名義に就いて、坊間に傳へる怪談があるが信じ難い。

ツチハシ 土橋 羽咋郡邑知院内粟生保に屬する部落。

ツチハシトキサネ 土橋辰眞 字は智豊、畹雲と號した。越前の人。金澤に來寓し、力役として自ら給し、嘗て淺野川橋梁再造の時もその傭中にゐた。辰眞頗る經義に精しきを以て、一時與村脩運・青地齊賢等之に資給し、一草廬を卯辰山下に結びて住せしめ、爲に自ら山下散人と號した。乾祐直・村瀬克忠等は